

男ありて (1955)

メディア 映画
ジャンル ドラマ スポーツ
製作国 日本
色彩 B&W
時間 109分
初公開日 1955/05/10

【解説】
菊島隆三のオリジナル脚本を、丸山誠治が監督した野球映画。野球に全人生を捧げた男と、彼を取り巻く家族や仲間を描いている。志村喬の代表作とも言われ、澤地久枝による志村喬の評伝にもこの題名が使われた。
プロ野球チームの監督を務める島村は、野球のことしか頭になく、家庭を顧みる余裕すらない。新人投手の大西が入団すると、家族に何の相談もなく、大西を自分の家に同居させてしまう。大西は島村の家族と打ち解け、娘のみち子とはお互い惹かれあう仲に。しかし試合でサインを無視した大西に、島村はつつい手を出してしまった。主将の矢野は島村を自宅に引き取り、怒って家出したみち子をなだめた。次の日、島村は判定を巡って塁審を殴り、一ヶ月の出場停止となってしまう。

【クレジット】
監督 丸山誠治
製作 渾大坊五郎
脚本 菊島隆三 Kikushima Ryuzou
撮影 玉井正夫
美術 小川一男
編集 庵原周一
音楽 斎藤一郎
出演 志村喬 島村達郎
夏川静江 妻 きぬ江
岡田茉莉子 娘 みち子
伊東隆 息子 照夫
三船敏郎 Toshiro Mifune 矢野光男
藤木悠 大西博
清水元 小池
清水将夫 瀬川記者
土屋嘉男 丸山選手
松尾文人 北岡選手
加東大介 雑誌記者
恩田清二郎 殴られる塁審
河崎堅男 葬儀屋主人
森啓子 みち子の友達
河美智子 みち子の友達